

ひまわり

Saga
University
Library
Bulletin

No.41
October 2017

目次

CONTENTS

大学図書館の役割と電子ジャーナルの動向について 館長…	1
医学分館の現況と課題 副館長…	2
「小城藩日記データベース」について…	3
ラーニング・コモンズの利活用…	4
図書館サポーター＝さらりーずの活動…	5
平成28年度 図書館月間 …	6
オープンキャンパスでの展示・イベント…	6
図書館脱出ゲーム…	7
熊本地震(4月15日未明)の被害状況 …	8
実習・研修生の受入…	8
医学分館ブラウジング雑誌の見直し…	8
図書館オリエンテーション・講習会…	9
図書館の施設整備…	9
図書館統計…	10
受入資料紹介…	14
人事異動…	14
図書館日誌(行事・会議・研修等) …	15
貴重書紹介 「柴田介次郎上海談聞書」(小城鍋島文庫)	



大学図書館の役割と 電子ジャーナルの 動向について

館長 米山博志

図書館に関わるようになって初めて、大学図書館は本の保存をするだけの場所でない大きな役割があることを教えられた。拙稿を利用して、大学図書館について、その役割とそれを取り巻く動きの一つについて少し触れたいと思う。

佐賀大学附属図書館は、92の国立大学等の附属図書館から成る国立大学図書館協会(JANUL)に属している。そのJANULは、昨年「国立大学図書館協会ビジョン2020」を採択した。その基本理念は、これからの大学図書館のあり方を示していると思うので紹介させていただく。それは「大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。」というものである。この理念の実現に向けて、3つの重点領域1. 知の共有、2. 知の創出、3. 新しい人材、を定め、それぞれの目標の達成に向けて2020年を節目として取り組みを進めることとしている。

大学図書館の第一義的な役割は教育・研究を支えるということであり、世の中の動きに沿って変化する教育・研究のあり方に依存して図書館の役割の果たし方も変わるといふことだと思ふ。その最も大きな要素が電子化ということであり、従来の図書の整備・保存という役目に加えて、研究成果の電子的流通、保存、オープン化、電子リソースの適切な整備をすること等が重要な役割になってきている。また、ラーニングコモンズやリサーチコモンズのように、教育の質を高めたり研究の進展を促したりするための場を提供することも図書館の重要な役割である。

研究を支えるための図書館の大きな役割の一つとして電子ジャーナル(EJ)の整備がある。しかし、EJの価格は市場の特殊性、出版社の寡占状態、投稿論文数の増加、システムの開発・機能強化などを理由に毎年値上がりが続いている(小陳左和子氏(JUSTICE)、2015東海地区大学図書館協会研究集会)。主要なEJはパッケージ契約という形態をとっているが、多くの雑誌を利用できるという大きなメリットがある一方、購読規模を維持する条件の下、契約価格は毎年数%ずつ上昇するため、その金額は大学の運営に大きな影響をもたらす程になっている。このまま価格の上昇が続けばEJの維持は不可能になるため研究基盤が大きく揺らぐことになり、その結果、研究の健全な発展が阻害されることになることは必然的であり、この契約形態は限界に近づいて来ていると言えよう。

このような状況の中、著者が論文処理費用(APC)を支払うことによって誰でも自由に閲覧が可能なオープンアクセス(OA)ジャーナルの普及が進み、OAが主要な利用形態になる傾向が見られる。今年、千葉で開催された国立大学図書館協会総会の研究集会での講演「海外における学術雑誌のオープンアクセス化の動向」(細川聖二氏(東大附属図書館、JUSTICE運営委員会))で、その知見を得ることができた。それによると、2015年に出版された論文のうちOAは全体の約18%(著者支払いは13%)を占めるが、購読型論文の数が毎年1~4%の割合で増加しているのに対して、OAは毎年12~24%で急増している。また、現在、商業出版社が主体のOAが主流となっている中で、高エネルギー物理学分野では、欧州原子核研究機構(CERN)という研究機関が中心になって、世界の主要な図書館、助成機関等から集めた購読料をAPCに振り替えてOA化を進めている(SCOAP³)。その対象となっている雑誌の一つであるProgress of Theoretical and Experimental Physicsは、OA化される前と後では年間平均ダウンロード数が18倍増えたという報告があり(Salvatore Mele氏(CERN), 13th Berlin Open Access Conference, Berlin, 2017)、利用度の促進というOA本来の目的にも適った成果を上げている。さらに、欧州では、APCと購読料を組み合わせたパッケージ契約形態も実施されるなど、従来の契約形態に代わる、OAを基にした新たな形態が模索されている段階にきている印象がある。このOA化については、国際的な取り組み(OA2020)が進行しており、2020年までに主要な学術雑誌のOA化を目指すという。その動向を見守りたい。



医学分館の現況と課題

副館長 宮本比呂志

副館長(医学分館長)に着任して1年が経過しました。この1年間の医学分館での取り組みを振り返り、医学分館の現況と課題について述べたいと思います。

鍋島地区にある附属図書館医学分館は、旧佐賀医科大学附属図書館として1980年に建設されました。築後37年が経過し、耐震化率は基準を上回っていますが、老朽化、狭あい化がすすんでいます。利用者に安全・安心な環境を提供し、また太陽光発電等の導入による省エネルギー対応施設として、大規模な改修工事が必要な状況です。建築当時の図書館利用では想定されていなかったラーニングcommons等のスペース対応や、災害発生時におけるBCP(事業継続化計画)としての図書館の役割も最近では重要視されています。これらに対応できる施設として機能強化工事の必要も出てきました。そこで昨年度は、大学の施設整備事業として「医学分館の改修・機能強化工事」を河野課長(当時)の発案で大学本部へ要望しました。しかし、大学全体の中での優先度は低いとの大学執行部の判断で、要求はかないませんでした。「医学分館の改修・機能強化工事」については今後も継続して要望していくつもりです。

大規模な改修工事は無理でしたが、この1年間で、私が力を入れたのは、安全・安心な医学分館にするための施設整備です。学生の「24時間無人開館を実施してほしい」という強い要望に応えるために、防犯システムの整備を行いました。入退館自動ドアの施設管理システムの更新、防犯カメラの増設、そして15箇所に非常ベルを設置し、防災センター警備員への通報システムを整備しました。これにより、これまでの午後9時閉館から、午後11時30分閉館(午後9時から午後11時30分までは無人開館)に開館時間を延長することができました。防犯システムの更新により、以前より「安全」な図書館になりましたが、「安心」な図書館になったかは不明でした。「安心」は利用者個々が判断するもので、「安全」と違って基準がありません。学生自治会メンバーから「学生、特に女子学生が安心して図書館を利用できるようになったと言っている」と聞いた時には、防犯システムの予算を調達した際の苦労を忘れるほど嬉しく思いました。

今年度から24時間無人開館のトライアルを実施するつもりでした。しかしながら、館内飲食禁止のルールを守らない学生がいるため、24時間無人開館のトライアルに踏み切れない状況にあります。そこで、学生自治会と教育委員会の学生委員を通じて「館内飲食禁止の遵守」についての複数回の周知を行いました。その結果、最近では館内飲食がほぼ無くなり利用マナーが顕著に改善されました。24時間無人開館トライアルに一步近づいたと喜んでいた矢先、平成28年度の入館者数が平成27年度に比べて減少していると報告を受けました。開館時間の延長が利用者の拡散になり、期待したほど利用者が増えないことはあっても、まさか減少するとは予測しませんでしたのでショックでした。図書館が利用者のニーズに対応してないことを突きつけられたわけですから・・・

利用者である学生と話したところ、図書館資料(本や雑誌)の魅力が薄れているわけではなく、「冷暖房等の空調」に関する、「館内での飲食」に関する、「パソコンの利用環境」等の図書館の環境が利用者ニーズに対応してないことが明らかになりました。個人が静かに学習に集中できるプライベート・スペース、雑談や飲食が可能なリラックスできるリフレッシュ・スペースなど、長い時間を過ごすことのできる様々な空間が設置された図書館、いわゆる「滞在型図書館」を学生は求めていました。館内飲食禁止を周知徹底した結果として図書館が敬遠され、深夜0時まで利用できるようになった改修後のPBL学習室や講義室で、飲食しながら勉強する人が増えたようです。勉強の利用場所が学内で分散したわけで、学生全体が勉強しなくなったわけではなさそうです。来館機会の減少により貸出し冊数にも影響が出るでしょうが、借りた図書館資料をPBL学習室や講義室に持ち込み、飲食しながら利用することは禁止していません。積極的に本を借りて勉強してほしいと思います。図書館内にリフレッシュ・スペースを設置して、そこで飲食してもらい、プライベート・スペースやグループ・スペースでは飲食禁止にするような図書館運営ができれば理想的かもしれませんが、現在の医学分館では上述したようにスペース的に困難です。従来から、図書館の多くの本は貸出可能で、自宅で飲食しながら利用されてきたわけですから、「館内飲食禁止」は図書館資料の汚染防止が大きな理由ではありません。食物の匂いや食べるさいの音などが他の利用者の迷惑になること、また、食べこぼしによる害虫(ゴキブリなど)の発生や机や椅子の汚損、そしてゴミの発生など、図書館の施設維持管理の問題から館内飲食禁止にしていることを理解してもらいたいと思います。

入館者数の増加、一人当たりの貸出し冊数の増加など図書館利用指標の改善がなければ、24時間無人開館の再開は難しいように思います。ルールを守った積極的な図書館の利用を職員一同でお待ちしています。



「小城藩日記データベース」について

地域学歴史文化研究センター

伊藤 昭 弘

地域学歴史文化研究センターでは、平成28年より「小城藩日記データベース」の構築を開始し、同年の国立歴史民俗博物館「総合資料学奨励研究」に採用され、研究費および技術的な支援を同館より得ながら、作業をすすめている。

佐賀藩に関する史料の特徴として、家臣の家々で作成された日記の多さがある。たとえば筆者がこれまで研究対象としてきた萩藩・松代藩の「毛利家文庫」や「松代藩真田家文書」は、特定の内容・事項についてまとめたいわゆる「一件物」や藩政部局ごとにまとめられた日記・記録類が豊富で、自身の研究に使えるような資料にアクセスしやすい。

対して「鍋島家文庫」など佐賀藩関係史料は、「毛利家文庫」などに比して「一件物」や藩政部局の記録類は少ないものの、家臣の日記が非常に豊富である。佐賀藩の家臣は、その最上位から順に三家・親類・親類同格・家老・着座・侍・手明鍵・徒・足軽と構成されている。三家は初代藩主鍋島勝茂の息子たちである元茂(小城鍋島家)・直澄(蓮池鍋島家)・直朝(鹿島鍋島家)が興し、幕府の軍役を果たすなど大名としての側面を持ちつつ、あくまで佐賀藩主のもとにある、いわゆる「内分支藩」である。親類はやはり勝茂の息子・直弘が興した白石鍋島家など4家、親類同格は龍造寺家の流れをくむ諫早家・多久家・武雄鍋島家・須古鍋島家の4家からなる。以上三家・親類・親類同格は「大配分」と称され、それ以下の「小配分」に比べて給地高が大きく、かつまとまりをもっていた。続く家老(7家)・着座(時期により変動)は藩政の要職をつとめたほか、大組頭として佐賀藩軍制における「組」を統率した。以上のいわゆる「上級家臣」の家々には、多くの日記が伝存している。佐賀藩研究者にとっては「宝の山」であり、筆者もこれまで各家の日記を用い、成果を出すことができた。

ただし日記は、上記「一件物」や部局の記録に比べ、家の奥向きから藩政に関することまで、実に多様な内容がランダムに記載されている。そのため筆者のように佐賀藩研究を専業としていたり、ある程度検討する時期を絞り込んでいけば、日記の調査に着手しやすい。しかしながら、たとえば佐賀藩の歴史に漠然と興味があるとか、出身地である佐賀をテーマに卒業論文を書きたい、また何らかのテーマでいろいろな地域の事例を検討し、佐賀藩にも手を伸ばしたい研究者にとって、日記はかなりハードルが高い。前述の「一件物」が比較的多ければ、それぞれの関心にそったタイトルの史料を調査できる。日記の場合、かなりの労力を費やさなければ、欲しい記事の有無すら確認できない。

地域学歴史文化研究センターは、多くの研究者が佐賀をフィールドとし、研究が進展することを望んでいる。そのハードルを下げるための手段のひとつとして、「小城藩日記データベース」は発想している。前述のとおり大量に伝存している家臣の日記のうち、管見のかぎり佐賀大学附属図書館所蔵小城鍋島文庫の「小城藩日記」は、その記事目録である「日記目録」が、藩政時代に作成されている。その画像は同館ウェブサイトで見覧可能(<http://www.dl.saga-u.ac.jp/OgiNabesima/nikkimoku.htm>)だが、さらに一歩すすめて記事をデータベース化することにより、佐賀藩に関心を持った方が興味のあるキーワードなどによって検索し、面白そうな記事を探し出す。そして「小城藩日記」の見覧を考えたり(本データベース内で「小城藩日記」の画像も見覧可能にする予定)、他の家臣の日記を見覧する(たとえば蓮池鍋島家の日記は、佐賀県立図書館ウェブサイト(<http://www.sagalibdb.jp/komonjo/php/KomonjoSeek.php>)で見覧できる)など、佐賀(藩)研究に足を踏み入れるきっかけとしてもらいたい。

ラーニング・コモンスの利活用

本館では、学生が主体的に学ぶアクティブ・ラーニング(能動的学修)のために、ラーニング・コモンスという新しい多目的学習空間を整備しました。学生はディスカッション、ディベート等のグループワークを行い、学習に取り組んでいます。

また、ラーニング・コモンスは授業、教育・学術研究等を目的とした研修やイベント等の専有利用も可能であり、平成28年度は下表のとおり59回の利用がありました。定期的な利用では、日本人学生と留学生が英語や中国語等で国際交流を図る「ランゲージ・ラウンジ」が開催されています。

	利用回数
授業*	34
研修、イベント等	25

*授業には新入生の図書館オリエンテーションを含む



「ランゲージ・ラウンジ」の様子(グループ学習スペース)

さらに、ラーニング・コモンスは、学生サークル等の展示スペースとしても利用されています。



(多目的スペース)



(ブラウジングスペース)

なお、図書館の企画による利活用として、学生の利用促進を目的としたゲーム式の体験型イベントをラーニング・コモンス全体を使って開催しました。また、新入生の図書館オリエンテーションをアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた内容に改め、グループ学習スペースを使って実施しました。

図書館では、より一層学生・教職員にラーニング・コモンスを利活用いただけるよう、教育・学術研究の支援活動に取り組んでいく予定です。

図書館サポーター＝さらりーずの活動

本館では「本コレ」という愛称でビブリオバトルを開催しました。ビブリオバトルとは数名の参加者が、自分が読んで面白いと思った本を持ち寄り、ひとり5分間を使って、口頭で本を紹介し、参加者が最も読みたくなった本＝“チャンプ本”を決定する知的書評合戦です。佐賀大学では2年ほど前から本庄キャンパス所属の図書館サポーター学生を中心に不定期に開催しています。

平成28年度の「本コレ」は、図書館本館1階を会場に、9月16日から12月12日までの間に8回催され、図書館サポーターを中心に、他の学生も交えて白熱したバトルが展開されました。また10月7日にはかささぎホール前の広場でも開催しました。



本館で開催された「本コレ」

例年夏期に行っていた学生選書ツアーを、今年度は2月に行いました(於：ジュンク堂書店福岡店)。店頭で本の表紙やタイトルを見ながらの選書で、魅力的な多くの本が図書館サポーターの手で選ばれました。また、選書ツアーに参加できなかった学生にもオンライン選書で選書活動に参加してもらい、学生の視点で多くの図書が選ばれました。

このほか医学分館では新入生向け図書館広報誌「さらり(No.9)」の医学分館紹介ページの作成に企画から参加、協力してもらい、明るくユニークで楽しい紙面が完成しました。こちらは当館ホームページでも閲覧できますのでどうぞご覧ください。



学生選書ツアー



医学分館「さらり」編集会議

平成28年度 図書館月間



講演する永原氏

附属図書館では、毎年11月を「図書館月間」と銘打ち、地域住民の方々に生涯学習の場を提供するというコンセプトのもと各種イベントを行っています。

平成28年度は「佐賀大学生まれの食品を語る」と題し、佐賀大学が開発に関わったオリジナル清酒「悠々知酔」、国産初のグレープフルーツ「さがんルビー」、ブランド野菜「バラフ」についての講演会、また併せて講演内容に関係のある資料展示を行いました。

講演会

会場：佐賀大学附属図書館 本館4階会議室

日時：11月10日(木) 14:00～15:30

「大学発オリジナル清酒『悠々知酔』を学生が考え、そして醸す！」

講演者：佐賀大学農学部教授 小林 元太 氏

11月18日(金) 13:30～15:00

「国産初のグレープフルーツ『さがんルビー』の育成と産地形成」

講演者：佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター教授 駒井 史訓 氏

11月28日(月) 14:00～15:30

「大学の技術開発を活用した農業ビジネス展開について」

講演者：株式会社農研堂代表取締役 永原 辰哉 氏

資料展示

会場：佐賀大学附属図書館

本館1階エントランスホール

期間：11月7日(月)～30日(水)

展示内容：「悠々知酔」、「さがんルビー」、「バラフ」に関連する資料



資料展示風景

オープンキャンパスでの展示・イベント

平成28年8月10日に、大学のオープンキャンパスが本庄・鍋島両キャンパスで開催されました。図書館では毎年イベントを開催して参画しています。平成28年度は「アクティブな図書館空間へようこそ」と銘打ち、以下のイベントを開催しました。

本館では自分が生まれた日の佐賀新聞を閲覧できるコーナーを設けたほか、来学、来館の記念撮影ができるコーナーを準備しました。また展示企画として「大学生になったら…」をイメージできる本の展示を催しました。医学分館では、恒例になったオリジナルうちわ・しおり作りを行いました。外の気温が高かったこともあり、多くの来学者が図書館を訪れて企画に参加したり、熱心に館内を見学していました。



記念撮影コーナー(本館)



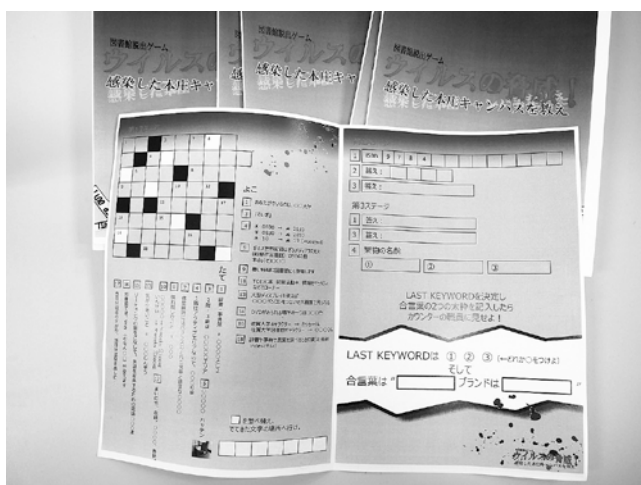
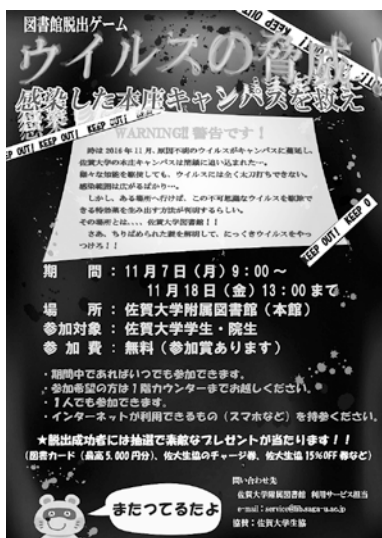
オリジナルうちわ(医学分館)

図書館脱出ゲーム

本館では、平成28年11月に佐賀大学の学生を対象とした図書館脱出ゲームを開催しました。

図書館脱出ゲームとは、図書館の中を探索しながら謎を解いていく体験型イベントです。図書館に関心を持ってほしい、図書館をもっと活用してほしいという願いを込め、ゲームを楽しみながら図書館の本や設備、サービスなどを学ぶことができる内容を目指しました。

今回の脱出ゲームは、「ウイルスの脅威！感染した本庄キャンパスを救え」というタイトルとし、原因不明のウイルスが蔓延した本庄キャンパスを救うために図書館の中にちりばめられた謎を解明していくというストーリーとしました。



謎(ゲームの問題)

参加者数は299名、そのうち脱出成功者は233名と想定より多くの参加があり、大盛況となりました。グループで協力しながら解いたり、一人でじっくり解いたり参加スタイルは様々でしたが、みなさん楽しそうに挑戦してくれました。

また、佐賀大学生協に協賛いただき、脱出成功者には、図書カードや生協のチャージ券、15% OFF券などをプレゼントしました。

参加者へのアンケート結果によると、90%の学生が「図書館に対する理解が深まった」、「今後の図書館サービスの利用頻度が増える」と回答しており、図書館に関心を持ってもらうには効果的なイベントであったと考えられます。今後も今回のアンケート結果を参考に図書館の活用を促すようなイベントを開催していきたいと考えています。



ゲームに参加している学生

熊本地震(4月15日未明)の被害状況

平成28年4月15日未明に震度5弱規模(佐賀市)の地震が発生し、図書館では以下の被害を受けました。

本館

- 人的被害…………… なし
- 建物被害…………… 4階南側 庇のずれ
- 資料の傾斜、移動…………… 全体的に点在
- 資料の落下…………… 主に2階・3階 約1500冊
- 開館状況 4月16日(土)から4月24日(日)を17時00分で閉館
1階のみ利用可 2階～4階は立入禁止



医学分館

- 人的被害…………… なし
- 建物被害…………… なし
- 資料の傾斜…………… 数か所
- 資料の落下…………… 2階・数冊
- 開館状況 4月16日(土)から4月24日(日)を17時00分で閉館



写真はいずれも本館

実習・研修生の受入

平成28年度は下記のとおり、実習・研修生の受入を行いました。

仕事体験実習

- 期 間：6月6日(月)～17日(金)
- 人 数：1名 (佐賀大学教育学部附属特別支援学校 中学3年生)
- 実習内容：カウンター業務、書架整理、館内清掃、図書の装備(タトルテープ、背ラベル貼り)

初任者研修(企業・福祉施設体験研修)

- 期 間：7月21日(木)～22日(金)
- 人 数：1名 (佐賀県立大和特別支援学校 教員)
- 実習内容：カウンター業務、図書館広報、機関リポジトリ、文献検索・複写、館内清掃

医学分館ブラウジング雑誌の見直し

医学分館では、平成27年度の末に、多目的学習室に配置しているブラウジング雑誌の購読タイトル見直しを図書館サポーター医学部メンバーの協力のもと行いました。館内において、現役の購読雑誌とサポーターが選ぶ新たな雑誌を合わせて購読候補とし、それらの人気投票を一定期間行いました。その結果、特に人気の高かった9誌について、翌28年度の第1回医学分館運営委員会において購読が承認され、ブラウジング雑誌がよりニーズの高いタイトルに入れ替わりました。



投票の様子

図書館オリエンテーション・講習会

授業の1コマを使用して、新入生向けの図書館オリエンテーション、学部3年生以上向けの講習会を実施しています。毎年、担当職員間で内容を検討のうえ、より良い内容で実施できるよう努めています。平成28年度は以下のとおり実施しました。(実施回数・参加人数は12ページを参照)

<本館>

新入生向け

図書館利用法全般

(アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた内容で試行)

学部3年生以上向け

文献データベースの検索、文献の入手法を中心とした演習(オンデマンド対応)

<医学分館>

新入生向け

図書館利用法全般

(館内案内、OPAC(蔵書検索)・MyLibrary(図書館ポータル)の使い方の説明)

*新規採用看護師にも同内容のオリエンテーションを実施

学部3年生以上向け

文献データベースの検索、文献の入手法を中心とした演習(院生には文献管理法を含む)

図書館の施設整備

平成28年度に本館及び医学部分館で下記のような施設整備を行いました。今後も利用者の方がより良く利用ができるよう図書館環境の向上・施設整備等を予定しています。

本館の館内サイン整備

ラーニング・commonsの整備(平成28年3月完成)に伴い、館内サインの整備を行いました。

サインは、建築学を専門とする工学系研究科の田口陽子准教授(当時)と同研究室の学生(当時)の考案によるものです。



壁面のサイン



非常用ボタン

医学分館の扉錠等の整備

医学分館では、扉錠システムをIC学生証及び職員証と連動して入退館が行えるように整備しました。また閲覧室・トイレ等へ非常用プザーの設置及び防犯カメラの設置台数の倍増を行い、不審者等の侵入防止、利用者の方の安全確保の充実を行っています。

図書館統計

(平成29 (2017)年3月31日現在)

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

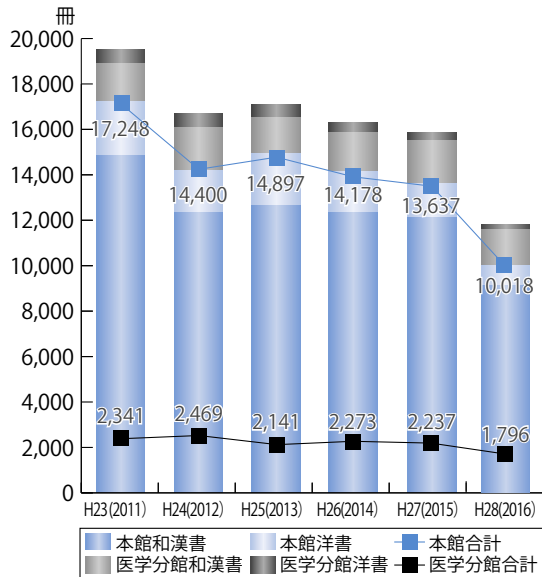
	和漢書	洋書	合計
本館	416,531	176,309	592,840
医学分館	69,290	46,763	116,053
合計	485,821	223,072	708,893

雑誌所蔵種類数

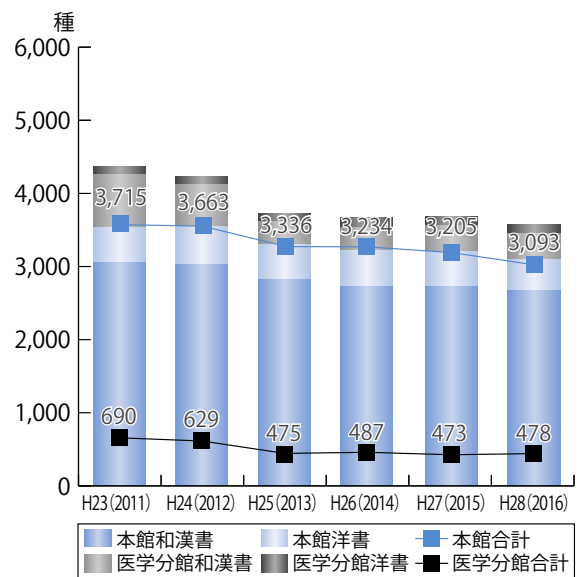
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,541	2,977	9,518
医学分館	1,243	1,119	2,362
合計	7,784	4,096	11,880

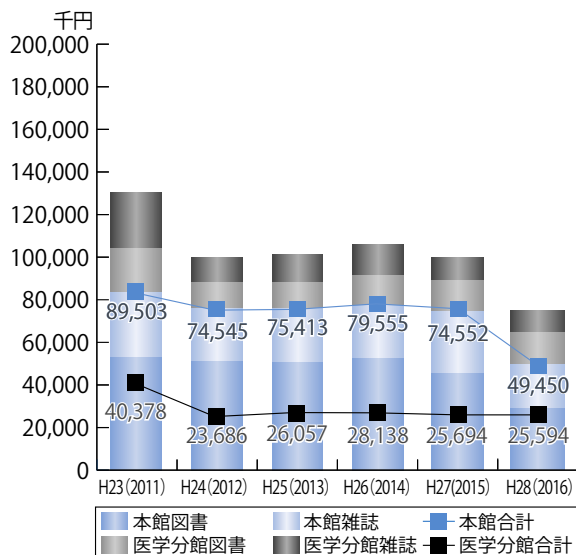
図書受入冊数



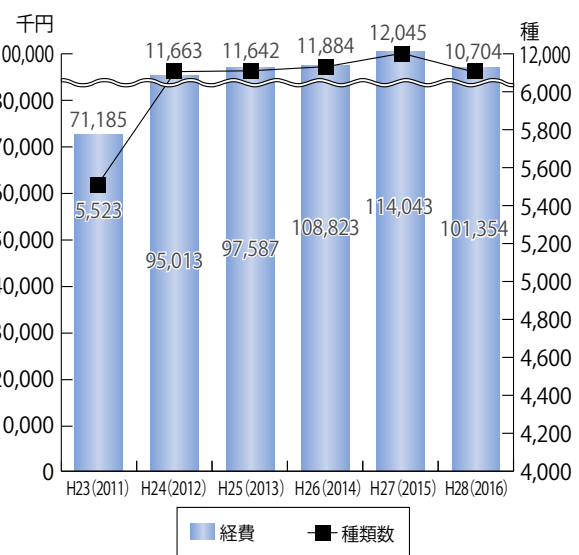
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



(注)平成24年度からアグリゲータ(CiNii、メディカルオンライン、Academic Search Premier、JSTOR)の電子ジャーナル及び外国雑誌契約で購読形態が電子ジャーナル分を加算している。

サービス統計

開館日数

〈平成28(2016)年度〉(日)

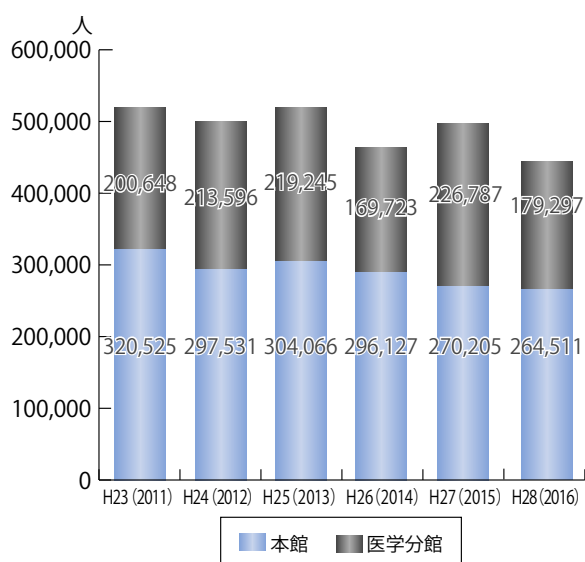
	本館	医学分館
平日	237	240
土・日・祝日	109	109
合計	346	349

利用対象者数

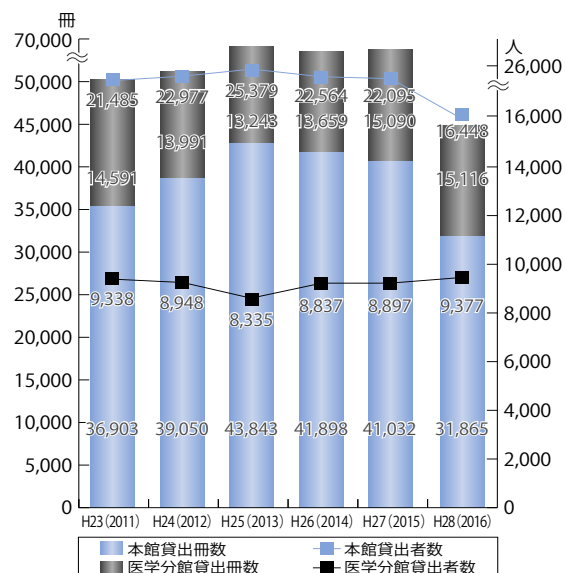
〈平成29(2017)年5月1日現在〉(人)

	本館	医学分館	合計
学生	5,889	1,100	6,989
教職員	1,196	1,472	2,668
合計	7,085	2,572	9,657

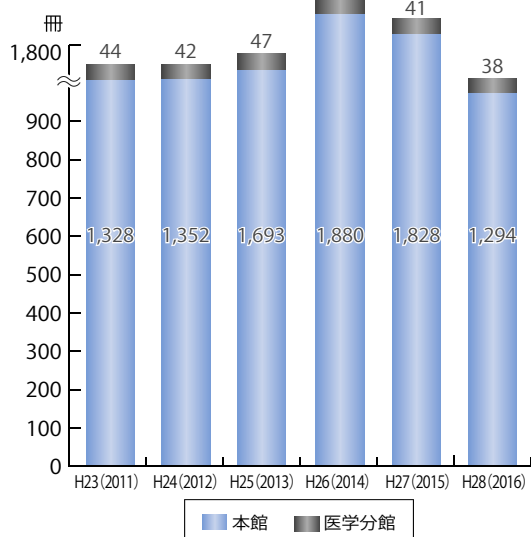
入館者数



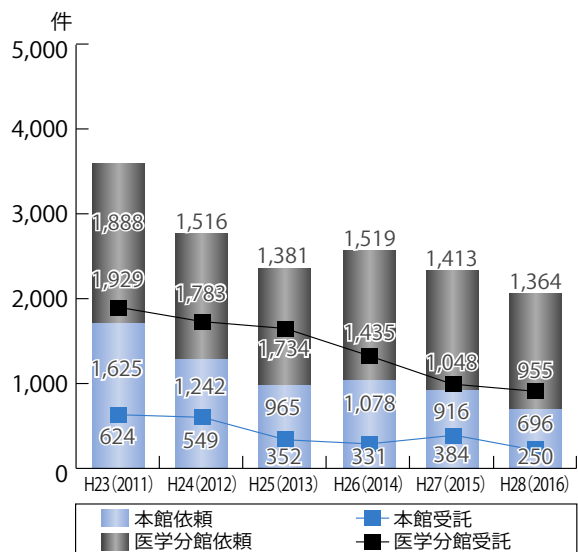
貸出冊数と貸出者数



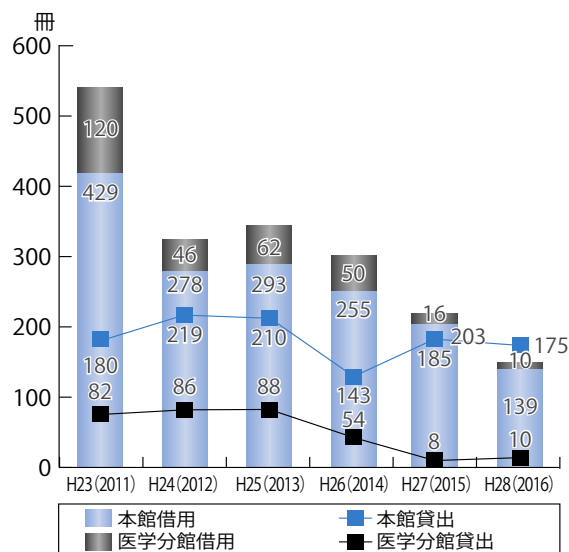
一般市民への貸出冊数



文献複写件数



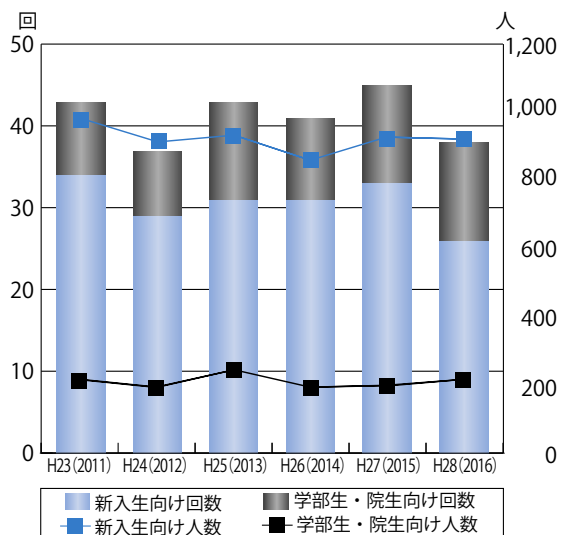
相互貸借冊数



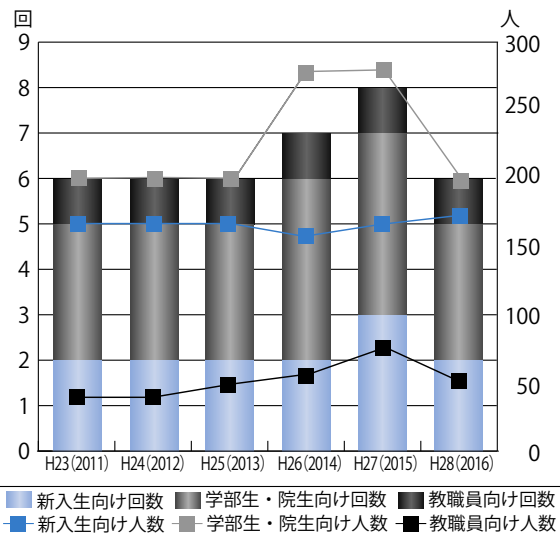
図書館オリエンテーション・講習会

			H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
本館	新入生向け	回数	34	29	31	31	33	26
		人数	983	914	934	860	929	924
	学部生・院生向け	回数	9	8	12	10	12	12
		人数	213	190	241	191	195	213
医学分館	新入生向け	回数	2	2	2	2	3	2
		人数	166	166	166	156	169	172
	学部生・院生向け	回数	3	3	3	4	4	3
		人数	199	197	198	272	275	191
	教職員向け	回数	1	1	1	1	1	1
		人数	43	43	47	57	78	52
本館	参加総数		1,196	1,104	1,175	1,051	1,124	1,137
医学分館	参加総数		408	406	411	485	522	415
参加総数(合計)			1,604	1,510	1,586	1,536	1,646	1,552

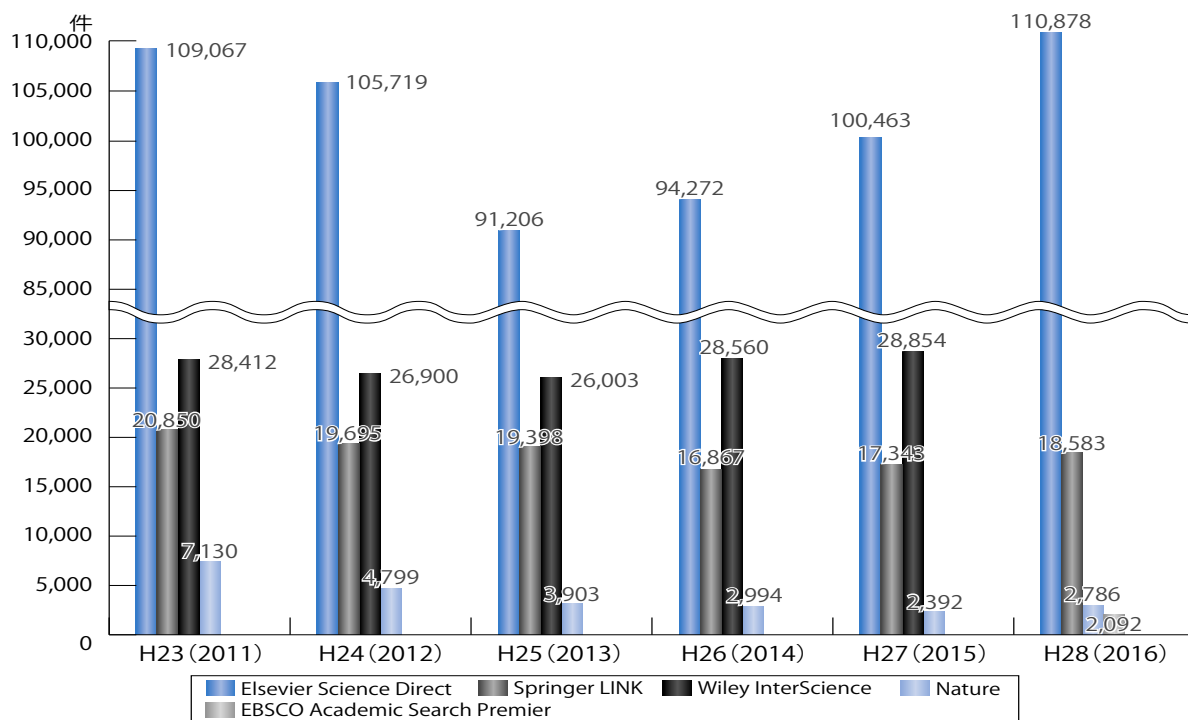
本館



医学分館



主要電子ジャーナル利用件数



・Wiley InterScience は H27(2015) まで
 ・EBSCO(Academic Search Premier) は H28(2016) から

文献データベース利用件数

	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
CiNii	21,149 (85,559)	15,689 (66,710)	14,620 (74,540)	12,898 (83,492)	15,193 (84,676)	15,175 (80,003)
間蔵	1,126	1,023	743	1,040	781	730
ヨミダス歴史館	(9,924)	(7,675)	(1,230)	(1,127)	(892)	(453)
ジャパナレッジ	300	155	155	824	1,030	647 (4,314)
日経テレコン	(690,657)	(688,304)	(248,024)	(312,650)	(285,606)	(147,244)
日経BP記事検索	(2,861)	(4,329)	(10,245)	(7,507)	(6,748)	(5,623)
医中誌Web	17,509 (59,105)	17,308 (51,252)	16,634 (55,738)	18,738 (65,725)	18,959 (66,889)	18,979 (64,202)
SciFinder	5,055	4,370	4,724	5,329	5,921	5,788 (27,944)
Ovid(MEDLINE, EBMR)	9,302 (22,413)	5,964 (11,207)	9,437 (21,541)	8,602 (29,528)	10,621 (33,178)	9,239 (15,826)
UpToDate	2,550	2,295	2,866	3,596	2,247	2,641
Clinical Evidence	37 (89)	38 (92)	36 (88)	40 (114)	44 (80)	42 (81)
Cinahl	277 (1,306)	73 (264)	130 (260)	143 (362)	469 (516)	309 (1,344)
Scopus	非契約	11,031 (35,832)	11,164 (34,083)	12,903 (33,671)	13,305 (33,772)	12,011 (33,922)

*括弧内は検索回数または本文利用回数

受入資料紹介

学生用図書

平成28年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入了しました。

教員推薦図書 1,406冊 学生希望図書 422冊 図書館推薦図書 1,263冊 継続購入図書 726冊

寄贈図書

- ・芸術地域デザイン学部准教授 石井美恵
染を学ぶ：「伝統と現代」絞り染・ろうけつ染・型染・テキスタイルプリント（外258冊）
- ・平成28年度 医学部医学科卒業生
医師国家試験のためのレビューブック内科・外科(2016-2017) / 国試対策問題編集委員会編集（外14冊）
- ・平成28年度医学部看護学科卒業生
看護師国家試験国試過去問 "よくでる！" セレクト(2017年版) / 杉本由香編（外6冊）
- ・メトロポリタン美術館名誉コンサヴァター 梶谷宣子
Masterpieces of tapestry from the fourteenth to the sixteenth century / Foreword by Thomas Hoving ; Introd. by Francis Salet ; Catalogue by Geneviève Souchal ; [Translated by Richard A. H. Oxbby]（外403冊）
- ・原田信之
教職大学院で現職教員と共に開発した授業実践 / 原田信之編著（外2冊）
- ・鹿毛理恵
現代人の国際社会学・入門：トランスナショナリズムという視点 / 西原和久, 樽本英樹編（外1冊）
(敬称略・順不同)

人事異動

(平成28年4月2日～平成29年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	異動後	異動前
定年退職	29.3.31	中島豊彦	社会連携課(再雇用)へ	情報図書館課係長 (総務主担当)
退職(転出)	29.4.1	河野泰久	鹿児島大学学術情報部 情報サービス課長	情報図書館課長
配置換	29.4.1	福島正徳	国際課副課長	情報図書館課副課長
配置換	29.4.1	永安樹	国際課(留学生主担当)	情報図書館課 (利用サービス主担当)
採用(転入)	29.4.1	大瀧礼二	情報図書館課長	九州大学附属図書館 図書館専門員
配置換	29.4.1	木寺仙明	情報図書館課副課長	国際課副課長
配置換	29.4.1	宮原茂幸	情報図書館課係長 (総務主担当)	研究協力課係長 (研究センター主担当)

図書館日誌（行事・会議・研修等）

平成28年

- 4月 1日 図書館情報誌「さらり」8号発行
- 4月21日 第46回 九州地区国立大学図書館協会総会(当番館:九州大学 於:福岡ガーデンパレス)
- 4月22日 第67回 九州地区大学図書館協議会総会(当番館:九州大学 於:福岡ガーデンパレス)
- 5月20日 平成28年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会(理事館:九州女子大学 於:九州女子大学)
- 5月25日 学術情報基盤オープンフォーラム2016(於:学術総合センター)
～26日
- 6月 6日 現場実習 特別支援学校 中学部 1名
～17日
- 6月13日 平成28年度 第1回附属図書館運営委員会
「平成27年度 決算及び平成28年度 予算(案)について」他
- 6月16日 第63回 国立大学図書館協会総会及び東日本大震災地スタディツアー
～17日 (当番館:東北大学 於:ホテルメトロポリタン仙台)
- 6月27日 平成28年度 第1回附属図書館選書専門委員会
「平成28年度 附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 7月13日 平成28年度 第2回附属図書館選書専門委員会
～19日 「学生希望図書取り扱い申し合わせ(案)について」他
- 7月19日 平成28年度 第1回附属図書館医学分館運営委員会
「平成27年度 決算及び平成28年度 予算(案)について」他
- 7月21日 体験研修 佐賀県立大和特別支援学校 1名
～22日
- 7月29日 第12回 学術情報セミナー2016 in FUKUOKA(於:九州大学)
- 8月22日 平成28年度 機関リポジトリ新任担当者研修(於:長崎国際大学)
～23日
- 8月26日 平成28年度 佐賀県大学図書館協議会総会
(当番館:佐賀大学 於:佐賀大学)
- 8月31日 図書館報「ひかり野」40号発行
- 8月31日 平成28年度 九州地区国立大学法人等係長研修(於:宮崎大学)
～9月 2日
- 9月 7日 大学図書館コンソーシアム連合 2016年度版元提案説明会(於:一橋大学)
～ 8日

- 9月14日 平成28年度 第2回附属図書館運営委員会(メール会議)
～20日 「図書を除籍及び他機関への譲渡について」
- 9月15日 平成28年度 九州地区目録講習会(於:九州大学)
～16日
- 9月16日 平成28年度 第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:久留米工業専門学校 於:久留米工業専門学校)
- 9月21日 附属図書館(本館)防災訓練実施
- 10月 3日 平成28年度 大学図書館職員短期研修(於:京都大学)
～ 7日
- 10月13日 平成28年度 第3回附属図書館運営委員会
「附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会要項の一部改正について」
- 10月21日 第64回 九州地区医学図書館協議会総会(当番館:琉球大学 於:ホテルサンパレス琉球館)
～22日
- 11月 7日 国立大学図書館協会秋季理事会
～ 8日 (当番館:一橋大学 於:一橋大学)
- 11月 7日 平成28年度 九州地区国立大学会計事務研修(於:ホルトホール大分)
～11日
- 11月10日 図書館月間講演会(於:附属図書館4階会議室)
講演会テーマ「大学発オリジナル清酒「悠々知酔」を学生が考え、そして醸す！」
- 11月11日 九州地区国立大学図書館協会会員館職員研修WG(於:九州大学)
- 11月11日 平成28年度 九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議(当番館:九州大学 於:九州大学)
- 11月14日 平成28年度 第4回附属図書館運営委員会(メール会議)
～18日 「図書を除籍及び他機関への譲渡について」
- 11月18日 図書館月間講演会(於:附属図書館4階会議室)
「国産初のグレープフルーツ さがんルビーの育成と産地形成」
- 11月19日 附属図書館(医学分館)防災訓練実施
- 11月25日 平成28年度 九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議(於:九州大学)
- 11月28日 図書館月間講演会(於:附属図書館4階会議室)
「大学の技術開発を活用した農業ビジネス展開について」
- 12月21日 平成28年度 第1回附属図書館評価専門委員会(メール会議)
～27日 「平成27年度 佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告について」

平成29年

- 2月 6日 平成28年度 第5回附属図書館運営委員会(メール会議)
～10日 「図書を除籍について」他
- 2月15日 平成28年度 第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:国際医療福祉大学 於:国際医療福祉大学)
- 2月20日 平成28年度 国立大学図書館協会シンポジウム(於:九州大学)
- 2月23日 学生選書ツアー(於:福岡市)
- 3月10日 国立大学図書館協会地区協会助成事業九州地区講演会(於:九州大学)
- 3月23日 平成28年度 第6回附属図書館運営委員会
「附属図書館利用規程の一部改正について」

貴重書紹介

「柴田介次郎上海談聞書」(小城鍋島文庫)

解説

文久2年(1862)、幕府は上海に帆船千歳丸を派遣した。これはイギリスの商船アーミスティス号を購入して遣使に充てたものであり、実際の操縦にあたった船員も、外国人が中心であった。この使節団は貿易開始を狙って上海に渡ったのだが、領事館の設置・正式な貿易開始は実現せずに終わる。

しかし日本人が中国に渡航することを禁じられてから既に二百年がたっており、諸藩の関係者をも含むこの使節団の渡海は、日本人の「世界」との再接近という点で、大きな意味を持つものとなった。奇兵隊を生んだ長州藩の高杉晋作や、日本海軍の立役者となる佐賀藩の中牟田倉之助、政商として成功する薩摩藩の五代才助など、明治維新前後に活躍することになる人々が、列強の租界が展開し、太平天国が清朝支配を揺るがした当時の中国の状況を目の当たりにして帰ることになったからである。

納富(柴田)介次郎(1844-1918)もまた、こうした渡海者の一人であった。小城藩の御用絵師であった柴田花守の次男と

して生まれた彼は、佐賀本藩の儒家であった納富家に養子入りしつつも、長崎で実父同様、絵師として身を立てるための修行に励んでいた。ところが長崎から千歳丸が渡海するにあたって、幕府使節で勘定吟味役の根立助七郎が出張先での絵図作成等を担当できる者を望んだため、中牟田倉之助を介して、介次郎の乗船が実現することになったのである。

納富介次郎がこの際に記した「上海雑記」は、高杉や中牟田の手記同様、古くから知られていたが、約二か月の渡海を終えて帰国した後、小城藩関係者が介次郎に対して行った聞き取りの記録である本史料は、附属図書館における小城鍋島文庫の整理の過程ではじめて知られたものようである。交易の実態や太平天国軍の展開する中国の現況、同行者のなかで見るべき人物は、といった問いが投げかけられており、これに対する介次郎の回答と合わせて、興味深い記録になっている。ちなみに最後の点については、五代才助の名が挙げられている。

後に佐賀藩の中国貿易や、明治政府の万国博覧会出展に携わり、欧米の工芸技術の移入に努力することになるなど、世界に向き合った明治人たる介次郎にとっての最初の海外体験を示す史料であり、本学に伝わるかけがえのない文化遺産である。

[参考文献]

- 横山宏章「文久二年幕府派遣「千歳丸」随員の中国観」『県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要』3(2002)
 黄栄光「幕末期千歳丸・健順丸の上海派遣等に関する清国外交文書について」『東京大学史料編纂所研究紀要』13(2003)
 三ツ松誠編『花守と介次郎』(佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2016)

(地域学歴史文化研究センター講師 三ツ松誠)

